

10. 大滝地域

(1) 大滝地域の概況

- 本地域は市の西部に位置し、荒川の谷あいには配置された国道140号の沿道を中心に集落が点在しています。
- 将来都市構造では、森林・自然ゾーンに位置づけられています。
- 都市計画法をはじめとする、各種法規制の適用状況は以下のとおりです。

【大滝地域の位置】



根拠法	区域指定等
都市計画法	都市計画区域外
景観法	秩父市まちづくり景観計画の農山村地域
農業振興地域の整備に関する法律	適用なし
山村振興法	振興山村地域
特定農山村地域における農林業等の活性化のための基盤整備の促進に関する法律	特定農山村地域
過疎地域自立促進特別措置法	過疎地域
自然公園法	秩父多摩甲斐国立公園(特別地域・普通地域)
森林法	保安林・国有林

【法規制の状況】

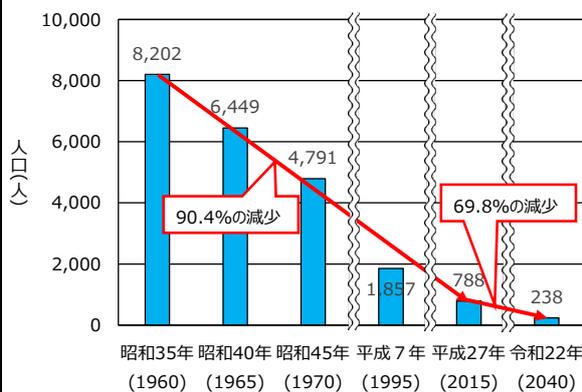


(2) 大滝地域の地域特性

①人口特性

- 人口は、二つのダム建設に伴う集団移転、秩父鉱山の操業縮小などを理由としてピーク時の1960(昭和35)年の8,202人からの60年間で7,414人、90.3%も減少し、秩父市で最も減少率の高い地域となっています。2040(令和22)年には238人まで減少することが予測されており、生活機能やコミュニティの維持が喫緊の課題となっています。
- 高齢化率は一部を除く大半の町丁大字で40%を超え、高齢化が顕著です。
- 定住意向では、「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」が約4割にとどまり、「移りたい」「できれば移りたい」とする回答がそれぞれ約3割と、10地域で最も高くなっています。

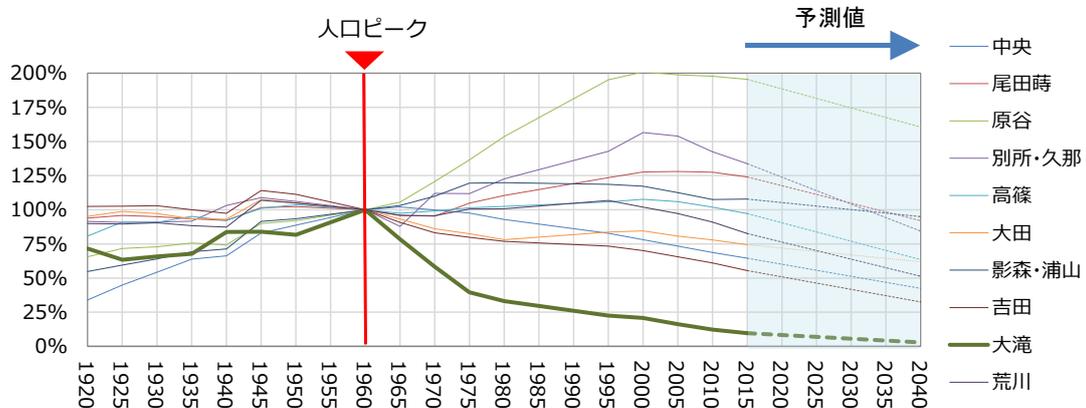
【人口動向(国勢調査)】



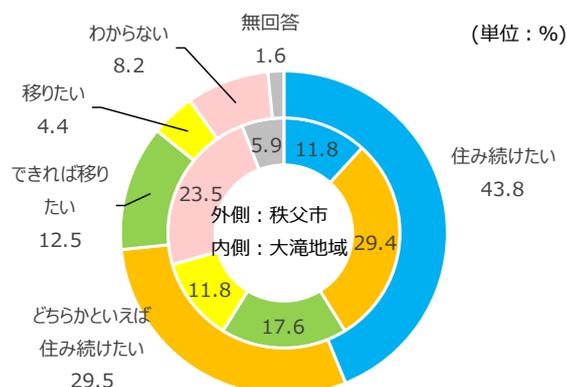
【町丁大字別高齢化率(平成27年・国勢調査)】



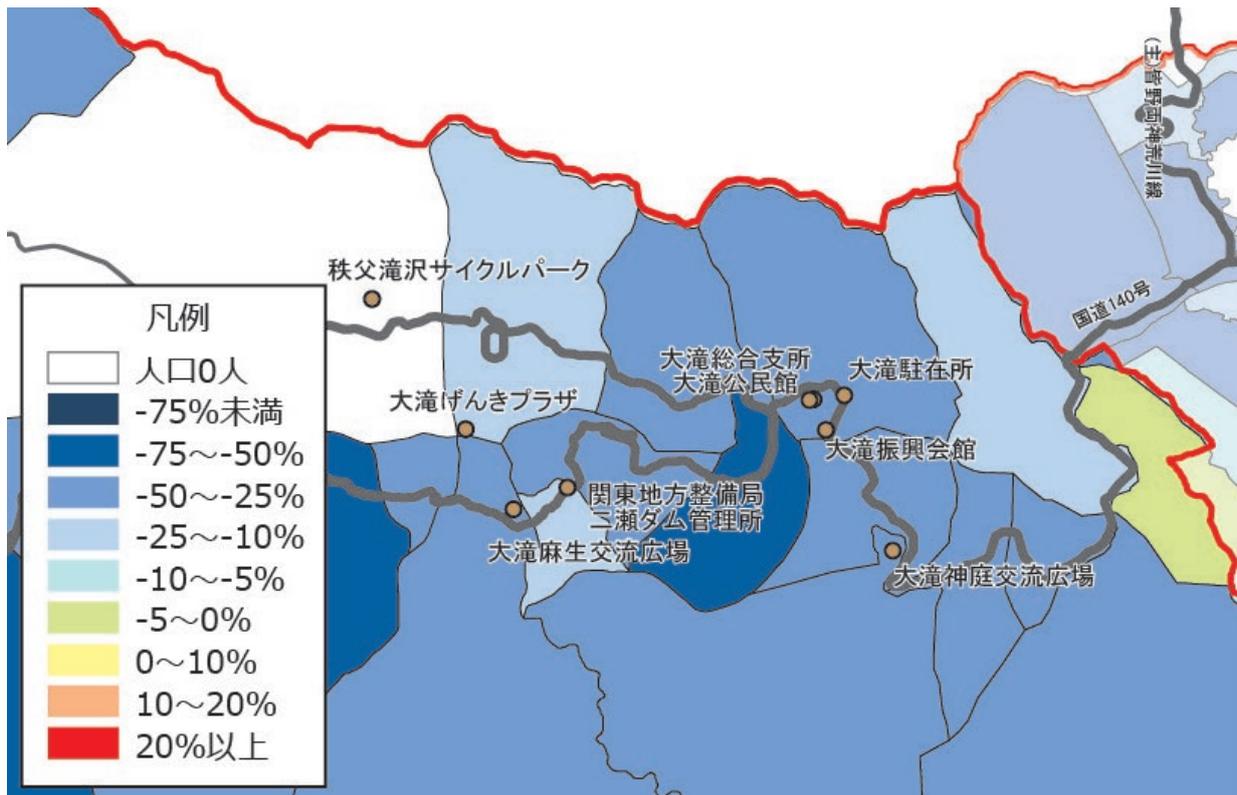
【1960(昭和35)年を100とした場合の人口指数の地域間比較】



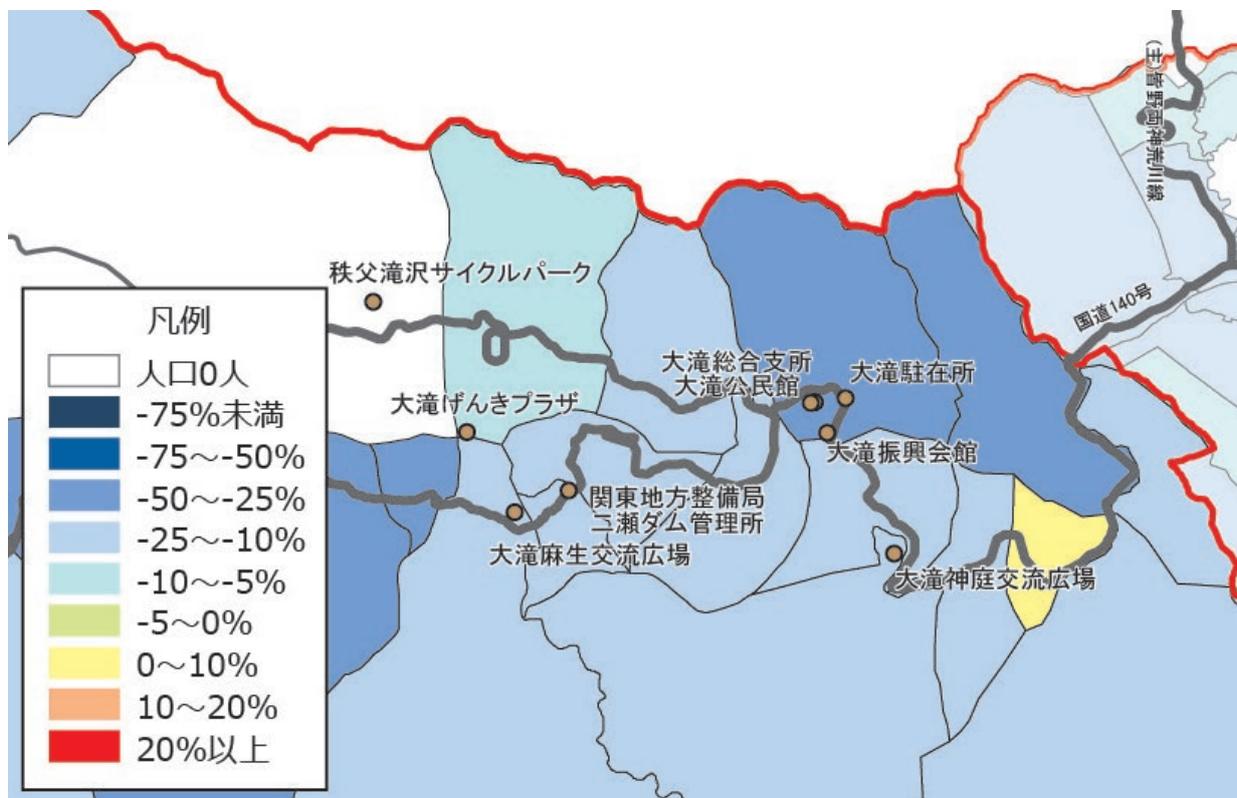
【定住意向(市民アンケート調査)】



【人口増減の動向(2005(平成17)年→2015(平成27)年人口増加率)】



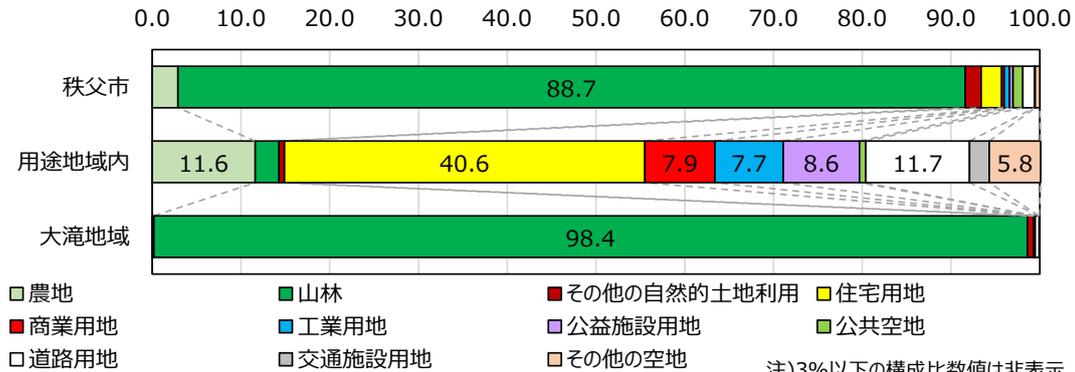
【人口増減の見通し(2015(平成27)年→2040(令和22)年人口増加率)】



②土地利用・産業基盤・機能

- 土地利用の98%を山林が占めています。
- 地域全域が自然公園法に基づく秩父多摩甲斐国立公園に指定されており、都県境の国有林は特別地域となっているほか、県・市有林、また大学や自然保護を目的とする公益機関、民間企業の社会貢献活動によって森林や生態系が保護されています。
- かつては林業が盛んであり、戦後民有林を中心に多くのスギやヒノキが植林されましたが、木材価格の低下や林業従事者の減少により管理の行き届かない森林が増加するなど、林業を取り巻く状況は厳しくなっています。
- 農業振興地域の指定はありませんが、集落地に小規模な農地が介在しています。
- かつては鉱山が盛んであり、秩父鉱山のあった小倉沢には2,000人以上が居住していましたが、現在は無居住化しています。
- 人口密度は非常に低く、大滝総合支所周辺や荒川・中津川沿岸、国道140号沿道に集落が分散・点在していますが、多くが土砂災害警戒区域などハザードエリアに指定されています。
- 行政サービスをはじめ主な都市機能は大滝総合支所やその周辺で提供されていますが、機能は限定的で荒川地域や中心拠点まで移動する必要があります。特に、食料品スーパーなど日常的な買物に対応した商業施設がなく、移動手段のない高齢者などは移動販売等に頼らざるを得ません。
- 道の駅大滝温泉や中津川溪谷、三峯神社など、多彩な観光資源が分布し、来訪者が集まる交流機能が配置されています。

【土地利用現況（平成28年・都市計画基礎調査）】



【土地利用現況図（平成28年・都市計画基礎調査）】

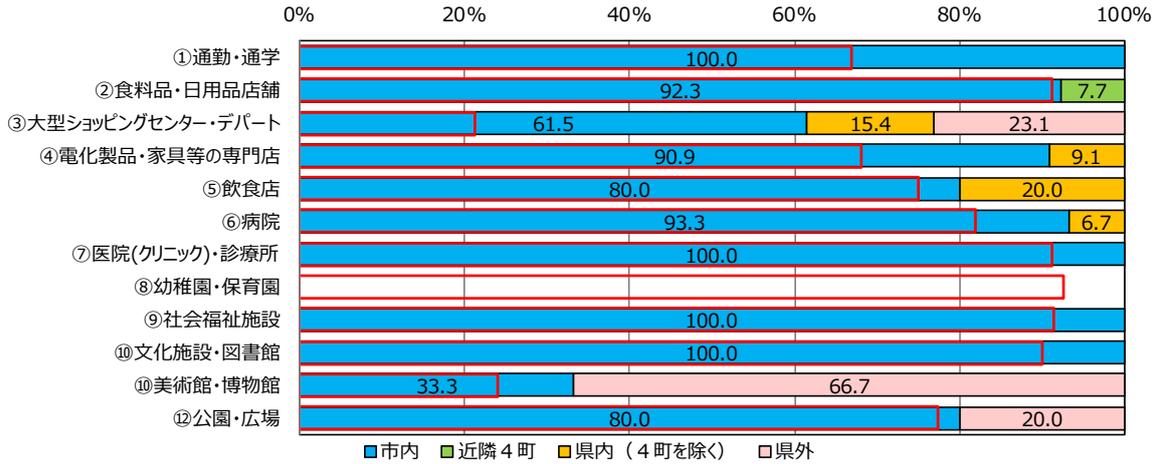


資料：平成28年度都市計画基礎調査（土地利用）

③居住環境特性（市民アンケート調査）

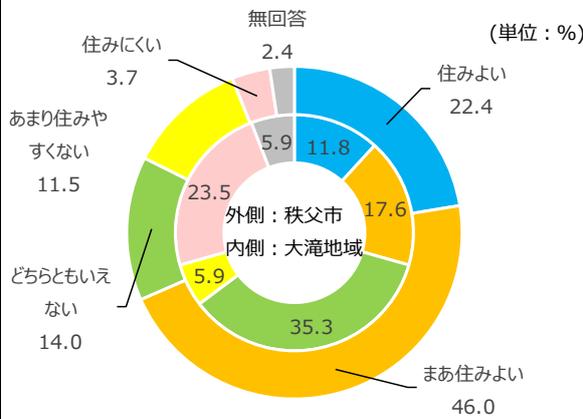
- 日常生活における目的ごとの主な行き先は、食料品の店舗など日常的に利用する施設を中心に、「市内」とする割合が市全体と比較して高くなっています。
- 住みやすさは、「住みよい」が約3割と、市全体の平均を大きく下回っています。
- 住みにくい理由は、「買い物が不便」「行政サービスが充実していない」「高齢者などにとって暮らしにくい」などとなっています。
- 行きやすくしてほしい施設として、「病院などの医療施設」や「身近な医療施設」「身近な商業施設」とする回答が上位となっています。

【日常生活における目的ごとの主な行き先】

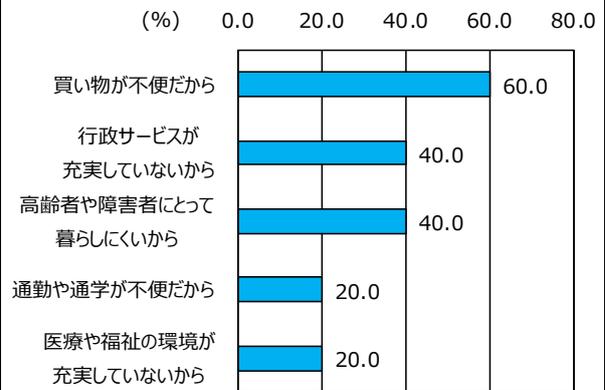


※赤枠表示は、行き先を「市内」と回答した市全体の回答者の比率

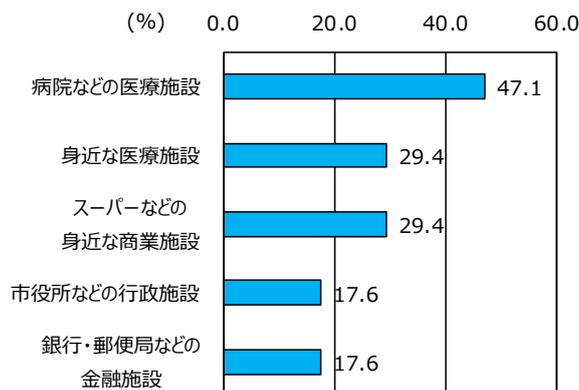
【住みやすさ】



【住みにくい理由】



【特に行きやすくしてほしい施設】



☆住民懇談会でこんな声が寄せられました・・・

<定住や生活環境に関すること>

- ・空き家と空き地、耕作放棄地の活用が必要と思う。
- ・若者が少なく、人口がさらに減少したら、簡易水道などが維持できなくなるのではないかと心配しています。

<道路や公共交通に関すること>

- ・車の運転のできない人は、送迎バスや、家族や隣人の協力で移動しています。
- ・観光客が増えて、道路が渋滞することがあります。

<観光や景観に関すること>

- ・大滝トンネルの完成で、通過してしまうおそれのある、道の駅への影響が最小限となるよう、対応を考えて欲しい。
- ・道の駅の老朽化が進んでいます。

④ライフステージに対応した施設

<あらゆる世代が利用する施設（共通）>

- 大滝地域は、令和2（2020）年度にコンビニエンスストアがオープンしましたが、食料品等日用品を購入するためのスーパー等がなく、隣接する荒川地域中心部まで出かけなければなりません。このため、移動販売もよく利用されています。
- 大滝国保診療所が設置され、地域医療を担っています。

【商業施設等】

小さな拠点事業として旧大滝中学校を再整備した大滝総合支所と隣接する道の駅大滝温泉周辺は、大滝地域における地域生活を支える拠点としての性格を有しており、令和2（2020）年には地域内に初のコンビニエンスストアがオープンしています。

一方、2040年には地域人口が100～300人程度へ減少することが予測されており、観光需要を取り込みつつ、どのようにIOT・ICTを活用しながら機能の維持を図るかが課題となっています。

【医療施設】

総合支所近くにある大滝国保診療所が地域診療を担っています。送迎も行っており、地域住民に親しまれています。

【金融機関】

金融機関は、郵便局がその役割を担っています。事業者に対し広く融資を含む事業支援は、中心市街地に立地する金融機関を利用する必要があります。

【あらゆる世代が利用する施設（共通）】

ライフ ステージ	対象 エリア	種別	具体例	交通手段	地域の課題 (代替え案)
共通	圏域	行政	国や県の機関・本庁		
	地域	行政	大滝総合支所		
	地域	医療	大滝国保診療所	自家用車 一部送迎あり	集約化
	圏域	医療	町立小鹿野中央病院 市立病院・秩父病院	自家用車 一部送迎あり	交通手段の確保
	地域	買い物	ファミリーマートの駅大滝温泉店		施設の維持
	地域	銀行 郵便局	大滝郵便局		

<幼年期から学齢期に関わる施設>

- こども園・幼稚園等の子育て支援施設、小中学校の立地はなく、隣接する荒川地域の施設を利用しています。
- 高等学校、大学は設置されていないため地域外、圏外への通学が必要です。

【保育園・認定こども園等】

新たな設置が見込まれないことから、民間施設の状況も踏まえながら、子育て環境の維持・向上に向け、通園手段などのあり方を検討していくことが求められます。

【小学校・中学校】

地域内では、小学校・中学校が閉校となったことから、隣接する荒川地域に設置されている荒川西小学校、荒川中学校の学区となっています。このため、大滝に居住する児童及び生徒を対象にスクールバスによる送迎が行われています。

今後は、児童・生徒数の推移を見守りながら、通学手段のあり方を検討していくことが求められます。

【高校・大学等】

高等学校は、地域の高等学校の魅力向上とともに、秩父圏域内外の高校へも通学が可能になるよう公共交通による移動の利便維持・向上が望まれます。

大学などでは、圏外へ容易に通学できるよう、公共交通による移動の利便維持・向上が望まれます。

【幼年期から学齢期に関わる施設】

ライフステージ	対象エリア	種別	具体例	交通手段	地域の課題 (代替案)
幼年期	地域	保育所 こども園等	かみたのこども園	送迎バス 自家用車	交通手段の確保
学齢期	地域	小学校 中学校	荒川西小・荒川中学校 荒川学童保育室 かみたのキッズクラブ	スクールバス 自家用車	交通手段の確保 施設の維持
高校	圏域 広域	高校	秩父圏域の高校 熊谷・飯能方面	バス・電車	交通手段の確保 施設の維持
大学 専門	広域	大学 専門	県内・都内	バス・電車	交通手段の確保

<就労壮年期から老年期に関わる施設>

- 地域外での就労場所は、市内、秩父圏域が中心です。
- デイサービスセンターや在宅介護に関わるサービス支援は、移動距離がやや長くなるため、必ずしも効率的とはいえない環境にあります。

【就労場所】

集落地と地域拠点を連絡する道路ネットワークの向上、公共交通による移動利便について現状の水準を維持していくことが望まれます。

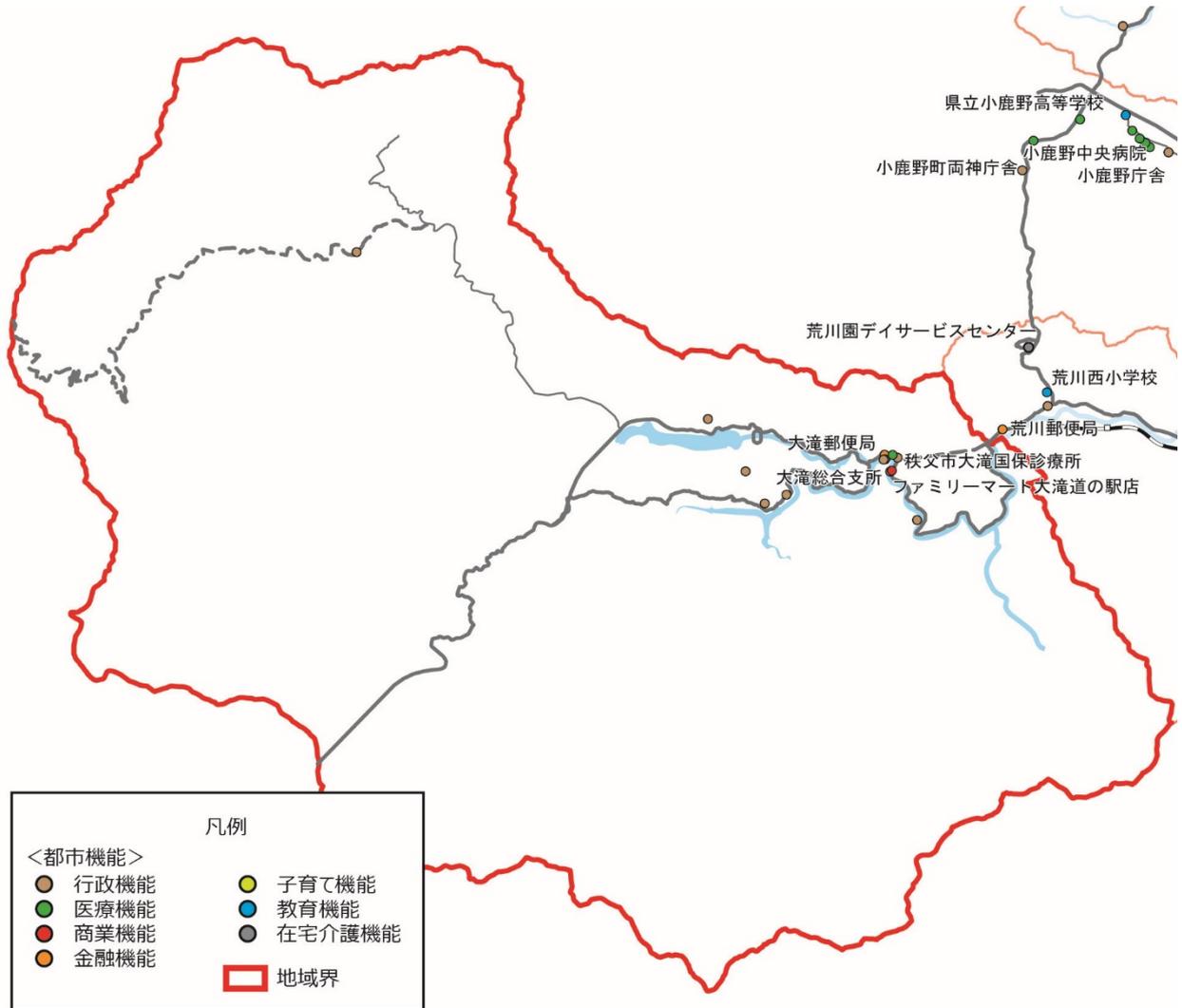
【在宅介護】

福祉・介護計画に基づき、地域の福祉サービスを維持・向上していくことが望まれます。

【老年期に関わる施設】

ライフステージ	対象エリア	種別	具体例	交通手段	地域の課題 (代替案)
就労 壮年期	地域 広域	雇用	市内、秩父圏域 熊谷・飯能方面、都内	自家用車 バス・電車	都内への電車交通 幹線道路等の整備
老年期	地域	在宅 介護	荒川園 (デイサービス・介護支援)	送迎	

【都市機能の配置状況】

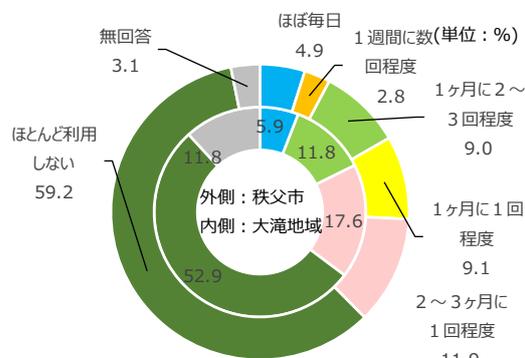


資料：都市計画課

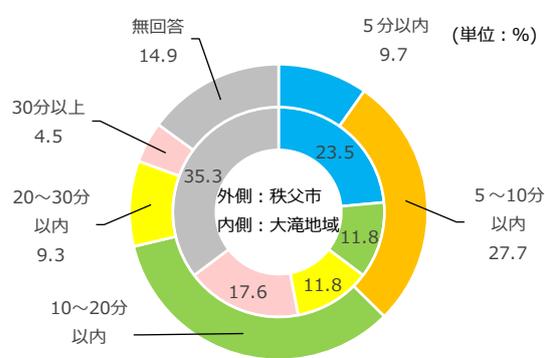
⑤道路、公共交通特性

- 本地域は国道140号で市街地と結ばれていますが、谷沿いを通る地形条件から落石や崩落の恐れがあり、安全性や利便性を高める大滝トンネルの整備が進められています。
- 雁坂トンネルを利用することにより、甲府まで約1時間の距離にあります。
- 公共交通は、路線バス（三峯神社線等）が西武秩父駅－三峰口駅－三峯神社・中津川間等で運行されています。運行頻度は西武秩父駅－大滝温泉遊湯館の急行バスが5往復／日、三峰口駅－大滝総合支所間が7往復／日となっています。
- 市民アンケートでは、公共交通の乗り場への所要時間は、10分以内が約3割にとどまっています。こうしたことも要因に、公共交通を「ほとんど利用しない」が5割に達しており、公共交通があまり利用されていない現状がうかがえます。
- 多様な年齢層の居住を可能としていく視点からは、学生のバス交通ニーズと高齢者を中心とするデマンド交通ニーズをうまく調整していく必要があります。

【公共交通の利用頻度（市民アンケート調査）】



【公共交通への所要時間（市民アンケート調査）】



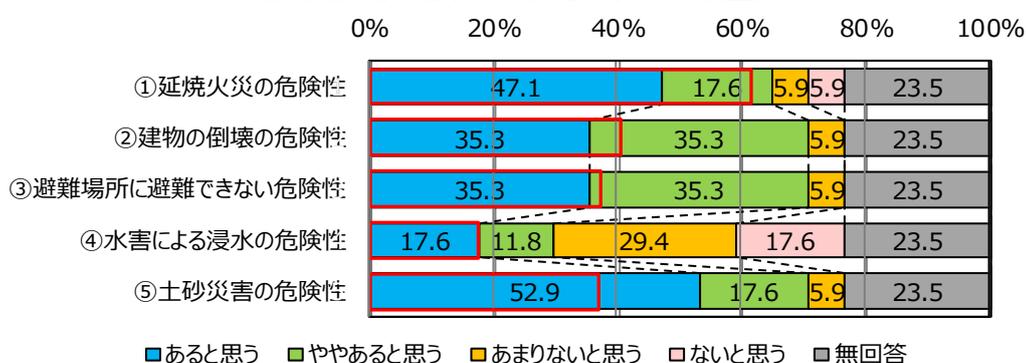
⑥景観、観光、文化特性

- 土地利用の大半を占める森林によって雄大な自然が景観が形成されています。また、中津峡は、四季折々に姿を変える渓谷美に優れています。
- 観光については、三峯神社、中津峡のほか、美しい山岳・河川を背景にした多くのキャンプ場や大滝温泉遊湯館など、豊かな自然の恵みを活かした多彩な観光業が盛んです。
- 二瀬・滝沢ダムの観光資源化や、滝沢サイクルパークBMXコース、三十槌の氷柱など観光客を増やすための取り組みが続けられています。
- 文化については、秩父神社・宝登山神社とともに秩父三社の一社に数えられる三峯神社が鎮座しています。古くは、三峰山の険しい地形を背景とした山伏の修行の場として広まり、現代に至っては、関東屈指のパワースポットとして人気を集めています。

⑦防災、地域安全特性

- 荒川やその支流が形成する谷沿いに集落が点在しており、これらの集落は土砂災害(特別)警戒区域、家屋倒壊等氾濫想定区域(河岸侵食)にも含まれており、豪雨災害に対する注意が必要です。
- 地震については、埼玉県が想定する5つの被害想定のうち、関東平野北西縁断層帯地震(30年以内にほぼ0~0.1%)によって震度5弱の可能性があるほか、震度4が広範な区域で想定されています。
- 点在する集落では建築年代不明の老朽空き家が分布しており、倒壊に対する注意が必要です。
- 地域の住宅密度が低く、延焼火災等の可能性は少ないと考えられますが、山火事に対する注意が必要です。
- 市民アンケートでは、地域における災害リスクについて「土砂災害の危険性」に対する回答が多くなっています。

【地域における災害リスク(市民アンケート調査)】



※赤枠表示は市全体の「あると思う」「ややあると思う」と回答した比率の合計

(3) 地域の将来像

地域の現状と将来動向、市民の意向とまちづくりの課題を踏まえ、大滝地域の将来像を設定します。

○国土と良質な水資源を守る自然エリア

秩父多摩甲斐国立公園に指定された優れた自然や、首都圏に良質な飲料水を安定的に供給する水源地として、適切な維持管理などを通じ、豊かな自然を保全していくエリアとしての役割を果たしていきます。

○歴史文化にひかれて多くの来訪者でにぎわう交流の拠点

関東屈指の古社であり、近年ではパワースポットとして多くの参拝客を集める三峯神社と周辺の観光資源をネットワーク化し、道の駅大滝温泉と結びつけることで、周遊性を高め経済的豊かさを創出する交流拠点の形成に取り組みます。

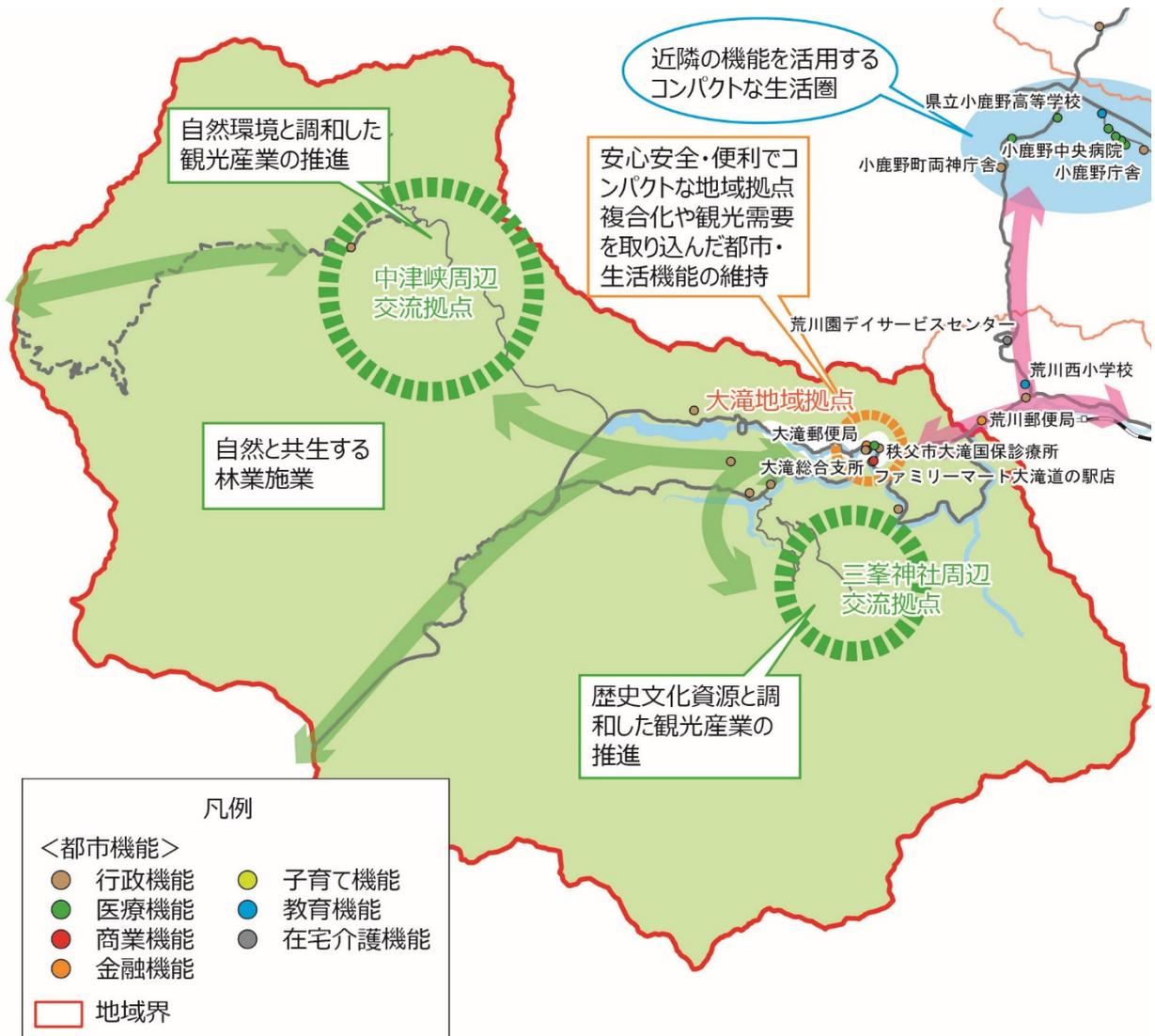
○定住とコミュニティの活性化を支える地域の拠点

大滝総合支所周辺を中心とした行政サービス機能や商業機能、医療機能などを維持するとともに、長期的な視点から周辺部への居住機能を誘導することで、日常生活に支障を感じることがなく定住でき、またコミュニティの維持と活性化を支える地域の拠点を形成します。

(4) 地域まちづくりの基本方針

「地域の将来像」を踏まえ、大滝地域におけるまちづくりの基本方針を設定します。

【地域まちづくりの基本方針図】



① 不足する機能の改善策

地域に不足するもののうち、特に対策が必要な機能については、次の方針のもとで改善に取り組みます。

対象機能・施設	改善の方針
既存施設 (行政機関・商業施設等)	<ul style="list-style-type: none"> 機能の維持 複合化、多機能化による運営コストの削減 大規模小売店舗が立地する市街地へのアクセス改善 移動販売に対する支援、新たな技術を活用した配送等の実現
病院・教育機関 子育て支援施設 高校・大学等	<ul style="list-style-type: none"> 合理的、効率的な移動手段の検討

②豊かさを実現する土地利用

『豊かさ』を実現するコンパクトでにぎやかな活力のあるまちづくりに向け、次の方針のもとで土地利用を誘導します。

- ・ 地域拠点への居住集約と老朽建築物の除却、自然的土地利用への回帰
- ・ 地域拠点への集約、複合化や観光需要を取り込んだ都市・生活機能の維持
- ・ 森林の保全と適正管理、林道などの基盤整備や集約化など林業施業の生産性向上
- ・ 自然環境や歴史文化資源と調和した観光産業の推進

(5) 対流まちづくりの基本方針

人口減少が予測される中、大都市との交流拡大によって需要を取り込み、まちとしての機能を維持するため、観光振興によるまちづくりに取り組みます。

①三峯神社・中津峡辺周辺を中心とする自然や歴史

関東屈指の古社である三峯神社は、近年ではパワースポットとして多くの参拝客を集めています。また、こまどり荘・埼玉県森林科学館が併置されている中津峡、埼玉県立大滝元気プラザ、溪流釣り場やキャンプ場など、恵まれた自然を活かした多くの観光施設が点在しています。自然や景観を保全し、既存の施設を活かしながら、都市との交流(対流)を促進し観光振興による「豊かさ」の実現に向けた交流まちづくりに取り組みます。

②道の駅大滝温泉周辺における交流拠点の形成

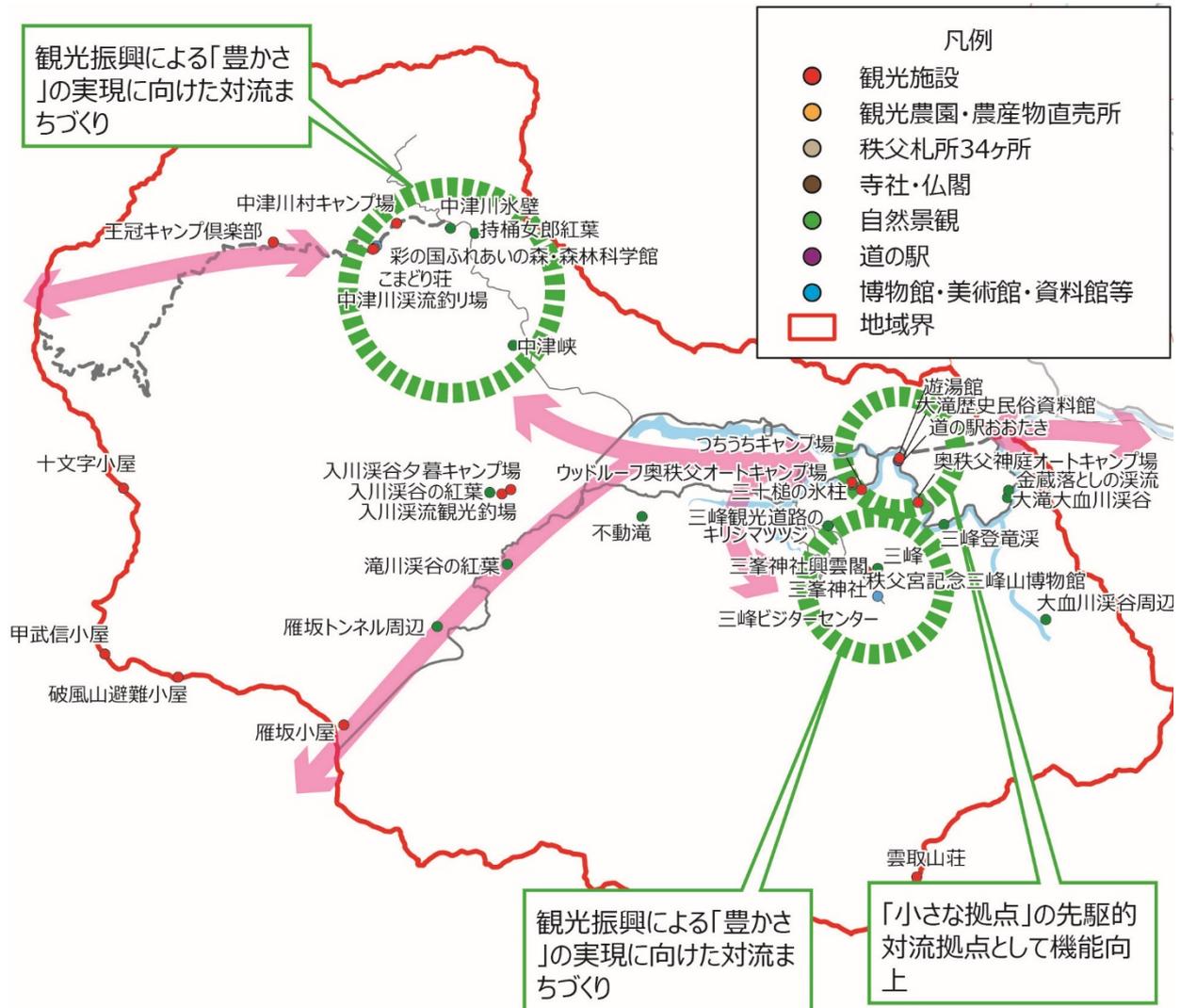
道の駅大滝温泉を中心に、飲食店や特産品販売、歴史民俗資料館などが併設され、周辺観光の拠点的性格を有しています。

また、近年はコンビニエンスストアが併設され、地域における生活利便施設としての複合化が進められており、交流拠点として観光需要を取り込みながら、地域の暮らしも支えていく機能も有する先駆的な「小さな拠点」として、機能向上に取り組みます。

③林業の(6次)産業化

カエデを植樹し樹液から秩父産メープルシロップを生産する取り組みや、神社・仏閣用の修復用資材として活用できる200年生の森づくりなど、森林施業の高付加価値化や6次産業化を推進します。

【対流まちづくりの基本方針図】



(6) 防災まちづくりの基本方針

市民の安全を守りつつ、同時に、コンパクトでにぎやかな活力のあるまちづくりを実現するため、防災の視点からのまちづくりに取り組みます。

①地域拠点における避難所・避難路の整備

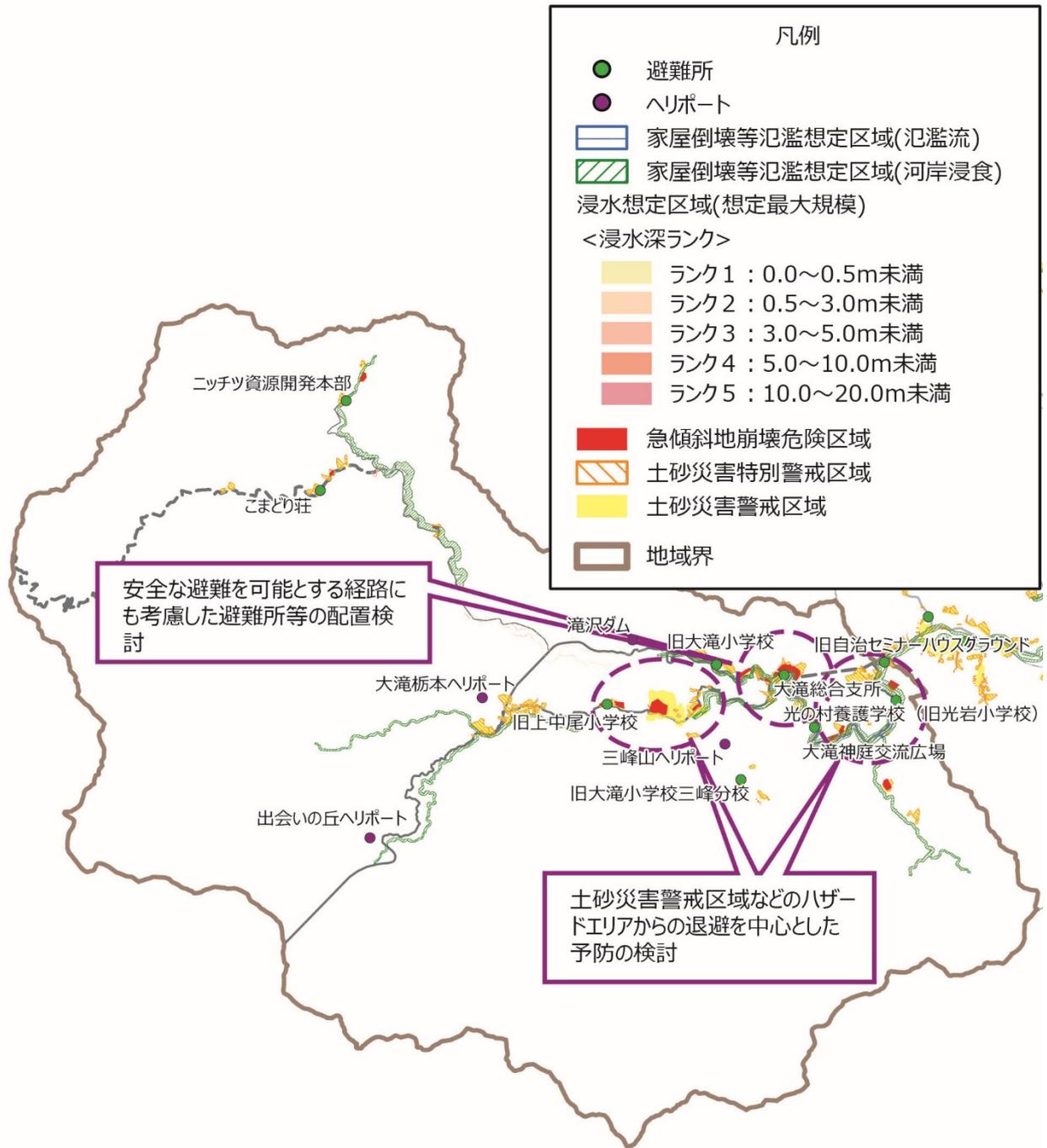
各拠点においては、定住人口や交流人口の規模に照らし、収容可能な避難施設を適切に配置します。

特に地域拠点においては、安全な避難を可能とする経路も考慮しながら、避難所等の配置についても併せて検討します。

②山間地の土砂災害警戒区域に対する対応

山間地の土砂災害警戒区域や家屋倒壊等氾濫想定区域などにおいては、避難場所の整備や区域からの移転など、災害リスクのある区域からの退避を中心とした予防に取り組みます。

【防災まちづくりの基本方針図】



(7) 将来像実現に向けた取組方針

「地域の将来像」及び「地域まちづくり」「対流まちづくり」「防災まちづくり」それぞれの基本方針を踏まえ、将来都市像を実現するための「取組方針」及び「主な取組」を、4つの基本目標を軸に示します。

1) 基本目標1の実現に向けた取組方針

(「みんなが「総活躍」し、豊かさを感じられる日本一しあわせなまち」に向けて)

①大滝の暮らしを支える地域拠点の形成

<大滝総合支所周辺>

- 大滝総合支所と道の駅大滝温泉を地域生活サービス拠点（小さな拠点）として、一体的な土地利用を図ります。
- 施設の複合化、高機能化を図るとともに観光需要を取り込むことによって、機能の維持に努めます。
- 拠点を中心とし、新しい技術を活用した山間地の生活基盤を確保する先駆的社会実験に取り組みます。
- 地域で確保することのできない都市機能については、道路交通・公共交通ネットワークにより各機能へのアクセス性を確保することによって補完する取り組みを進めます。

②中心・地域拠点への居住の誘導と自然的土地利用への回帰

<大滝総合支所周辺>

- 総合支所周辺を中心とした空き家・空き地の有効活用による居住誘導や、移転・集約化に取り組むことで、地域コミュニティの維持に取り組みます。
- 利用が見込まれない空き地は自然的土地利用の復元に向けた手法を検討します。

2) 基本目標2の実現に向けた取組方針

(「さまざまな移動・物流手段に支えられた、ヒト・モノ・カネ+情報が交流する活力あるまち」に向けて)

①ヒト・モノ・カネ+情報が対流する連携軸の整備

<西関東連絡道路>

- 市域を越えた広域的な連携を担う広域連携軸として、大滝トンネルの早期完成と皆野秩父バイパス以西のルート設定を含めた早期の具体化を関係機関に働きかけます。

<国道140号>

- 本地域と隣接する荒川地域、中心市街地を結ぶ幹線道路として、必要な改良と適切な維持管理を関係機関との連携のもとで取り組みます。

②ヒト・モノの対流を支える公共交通の確保

<路線バス>

- 三峰口駅に至る幹線バス路線の維持、また有効的な公共交通網の構築に事業者と連携して取り組みます。

<利便性を高める公共交通システム>

- 山間地からの地域拠点アクセスや集落内の日常生活の利便性を高める視点から、公共交通システムのあり方を検討します。

③地域生活を支えるモノ（物流）の確保

<移動販売など物流に対する支援>

- 機能確保や施設へのアクセス改善が困難な区域においては、貨客混載や移動販売に対する支援、ドローン等の先端技術を活用した物流網の維持向上に取り組みます。

3) 基本目標3の実現に向けた取組方針

(「多くの人を訪れ、美しい自然環境と文化を堪能できるまち」に向けて)

①多くの人を訪れ、美しい自然と自然に魅了される交流拠点の形成

<三峯神社周辺>

- 本市を代表する歴史文化資源として、参拝者の観光行動を支援する機能の維持・充実を促進するとともに、周辺施設と一体となって交流機能の充実に取り組みます。

<中津峡周辺>

- 美しい溪谷美など地域固有の自然環境の保全を前提に、観光・レクリエーション機能の充実を図ります。

②多くの人を訪れ、自然の豊かさを実感する観光交流ネットワークの形成

<道の駅大滝温泉周辺>

- 道の駅を中心として、交通ターミナルと観光案内機能を結節させ、観光交流を支援する機能の充実に取り組みます。

4) 基本目標4の実現に向けた取組方針

(「誰もが「安心・安全」に暮らせるまち」に向けて～)

①美しい自然と安心・安全な水源地となる森林の保全・維持管理

<森林>

- 森林環境譲与税や「小さな拠点税制^{※)}」などを活用して、地域特性を生かした森林施業の集約化や6次産業化などを促し、環境保全と豊かさ実現の両立を目指します。
- 水源かん養及び干害防備保安林など、関係法令のもとで荒川源流の森林を保全し、首都圏の水需要を支えます。
- 国土保全をはじめ森林の有する機能に応じた森林施業の促進による適切な維持管理に取り組みます。

※)「小さな拠点税制」とは：中山間地域等において、地方公共団体と連携し、地域産品の開発・販売や農家レストランの運営などのコミュニティビジネスや住民向け生活サービスを営む株式会社に対して、個人が出資した場合に、出資者に対する所得税の控除が受けられる制度です。

②誰もが安心・安全に暮らせる環境の確保

<土砂災害警戒区域・浸水想定区域・家屋倒壊等氾濫想定区域等>

- 災害リスクの軽減を図るため、避難所や災害時要配慮者関連施設等が含まれる箇所から優先的に土砂災害防止施設等の整備に取り組みます。
- 土砂災害警戒区域や家屋倒壊等氾濫想定区域など、災害リスクのある区域から地域拠点周辺への居住機能の移転などによって、市民の安全の確保とまとまりのあるまちの形成に取り組みます。